

天井埋込形1方向吹出 据付工事説明書

PJC012D117

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線(室内)は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスユニットの取付方法は、ワイヤレスユニット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線(室外)及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線図表をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、[A警告] [B注意] に区分してありますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に[A警告]の欄にまとめて記載しています。しかし、[B注意]の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方(エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等)をお客様に説明してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

A 警告

- 据え付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因になります。
- 小部屋に据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界温度を超えない対策が必要です。
限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据え付け。万一、冷媒が漏れて限界温度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気等を入れない。
空気等が混入すると冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
既存(R22)の部品を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける。
冷媒配管を取り付けておらず、サービバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 空気清浄機、加湿器、暖房用ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取り付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内機の修理・点検作業に際して「室内機電源ブレーカー」を必ず落とす。
点検・修理にあたって、室内機電源ブレーカーがONのままだと、感電および室内機ファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転部、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

B 注意

- アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+種ヒューズ)・配線遮断器)を使用する。
大きな容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス(亜硫酸ガス等)、可燃性ガス(シンナー、ガソリン等)の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。
室内機は水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下等の原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据え付け、使用しない。
インターネット機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器等への電磁波の影響を及ぼす恐れがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据え付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ等、機器に影響する物質の発生する所
・車の飛来や蒸気が多い所(調理場、機械工場等)
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻りに使用する所
・積雪の多い所
・標高1000m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから水滴が落下し損害が生じる恐れがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で据付台を使用するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時に発生するスパッタがユニットにあたっては、ドレンパン等に損傷(ピンホール)をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため樹脂製のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に下水、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は硫黄系ガス等、有害ガスの発生する排水溝には直接入れない。
室内に有害ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。
- ドレン配管は下向き勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱を行うと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発熱・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の運搬は充分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
- フィルターをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源スイッチによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

1 据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

付属品

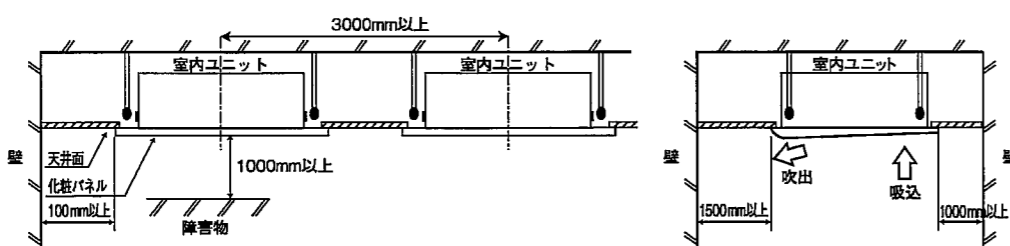
| 冷媒配管用 | | | ドレン配管用 | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|------------|----------|-----------|
| パイプカバー(大) | パイプカバー(小) | バンド | パイプカバー(大) | パイプカバー(小) | ドレンホース | ホースクランプ |
| | | | | | | |
| 1個 | 1個 | 4個 | 1個 | 1個 | 1個 | 1個 |
| ガス管断熱用 | 液管断熱用 | パイプカバー固定用 | ドレンソケット断熱用 | ドレンソケット断熱用 | ドレン配管接続用 | ドレンホース取付用 |

2 室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
●冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にもこもりますので、サーキュレータの併設をご指導致さい。
●据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
●ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
●侵入外気の影響のない所。
●直射日光の当たらない所。
●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
本ユニットはJIS露点条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高温湿度状態の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用される可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。
●テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
- ②据付しようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を3m以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

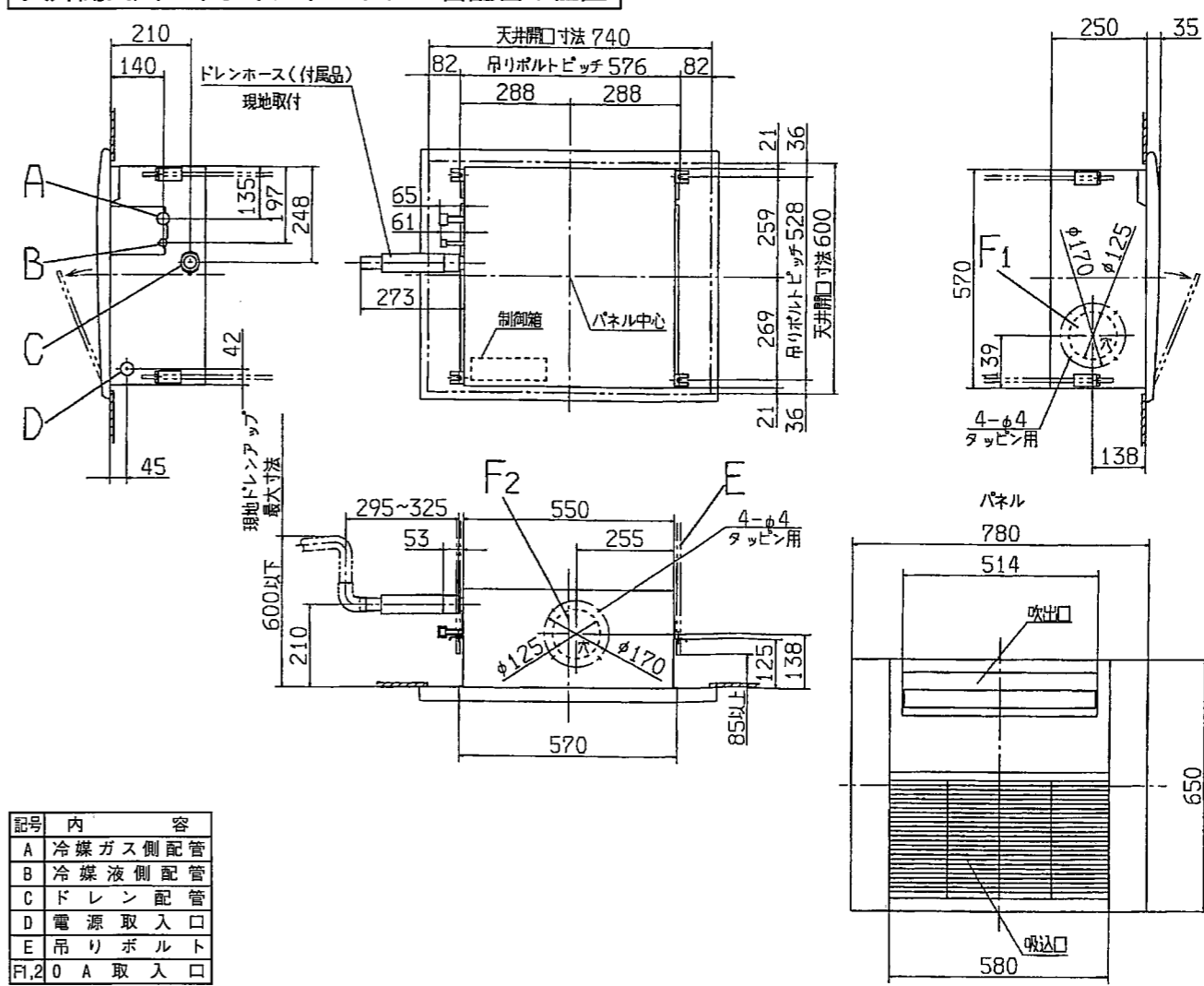
- 据付高さは2.5m以上としてください。



3 据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレスを設置する。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)1000mm以上の場合に耐震プレスを設置する。
- 吊りボルト・ナット・パネ座金・平座金(M10 or M8)を4組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



4 室内ユニットの据付け

作業手順

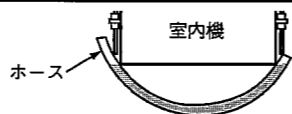
1. 天井に740×600の穴をあけてください。
2. 吊りボルト位置(576×528)を決めてください。
3. 吊りボルトは、4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4. 吊りボルト長さは、天井面より85mm程度上とってください。吊りボルトの下側ナット4箇所は天井面から125mm程度に仮止めし、上側ナット4箇所はユニット吊り込み及び高さ調整時に支障ないように、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、ユニット本体を吊り込んで下さい。
5. ユニット下面と天井面が一致するようにユニット高さを調整してください。(吹出口部分は、天井裏に入ります。)天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、天井下面に対し、エアコン本体下面が上方に5mm以下です。
[注意]エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

高さ調整は、上側ナット4箇所を緩めた状態で、下側ナット4箇所を調整してください。ユニット吊り金具4箇所を下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。

表面へつづく

④ ユニット据付のつづき

- ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用してください。(ユニット両端の高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締め付けてユニットを固定してください。



ユニット据付時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかつたり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 化粧パネルと天井面、および化粧パネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- 化粧パネルをしぼらくの間取付けられない場合、またはユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

⑤ 冷媒配管

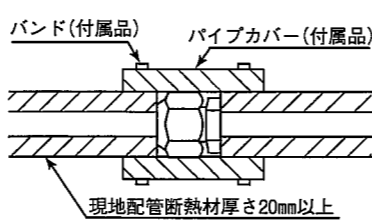
冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒R22で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点を確認してください。
・フレアナットは製品に付属されているもの(JIS第2種)に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
・室内配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金無鉛管(C1220T、JIS H 3300)をご使用ください。
また管の内外面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化銅、ゴミ、切粉等(コタミ)の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
R410A以外(R22等)の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも口を付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げはできるだけ大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。
また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで右側の締め付け力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

| パイプ径 | 締付力 N・m |
|--------|---------|
| φ6.35 | 14~18 |
| φ9.52 | 34~42 |
| φ12.7 | 49~61 |
| φ15.88 | 68~82 |
| φ19.05 | 100~120 |



⑥ ドレン配管

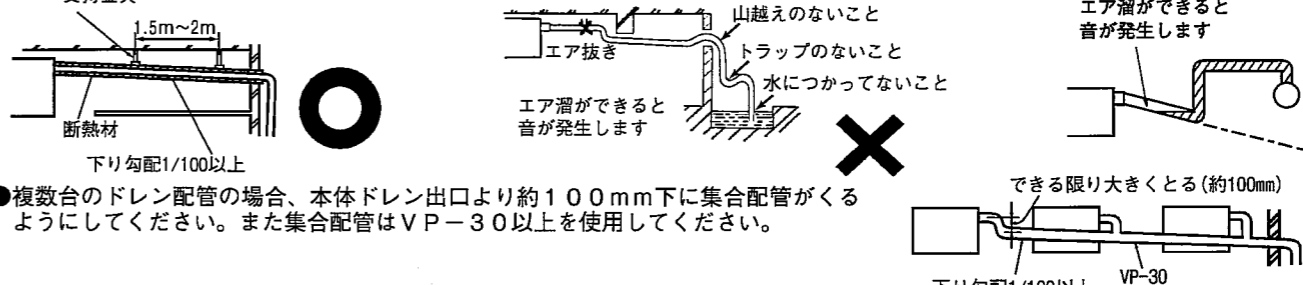
ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、臭いの原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時に排水が確実に実行されていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

⑥ ドレン配管のつづき

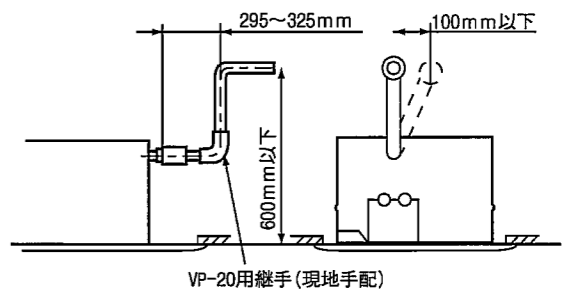
作業手順

- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)を本体ドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
●接着剤使用不可
- ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-20用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手に、VP-20(現地手配)を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ(一般用VP-20)を使用してください。
●本体直近で立上げる部分はVP-20、横引き部分以降はVP-25以上を使用してください。
- 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキシブルに力が加わった場合、フレキシブルが破損するおそれがあります。
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至るおそれがあります。
●ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する際にユニット側の配管に力がかからないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。
- 複数のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP-30以上を使用してください。
- ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。



ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より60cmまで高くすることができ、天井内に障害物等がある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。

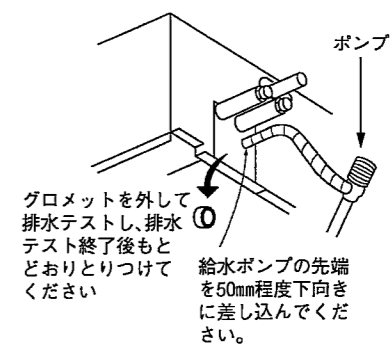


ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後、排水が確実に実行されていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモーター音に異常がないことも確認してください。
- 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

作業手順

- 配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約100ccほど注入してください。
- ドレン排水が確実に実行されること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
- 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
- 排水テスト後は、必ずグロメットを元通りにはめ込んでください。
- 排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



⑥ ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

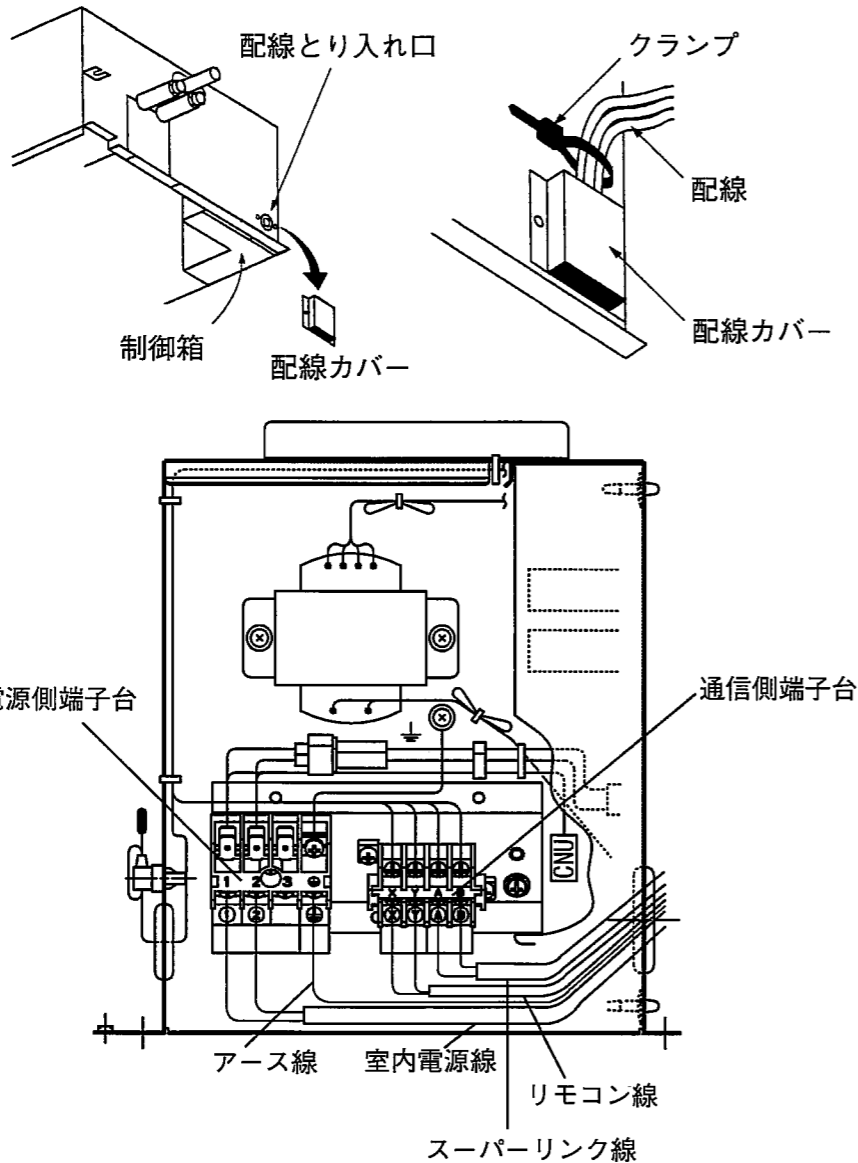
- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。
運転操作は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上的SW7-1をONにし、かつ、基板上的コネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上的コネクタCNBを差し込んでください。

⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」(内線規程)及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

- 電装箱の蓋(ねじ2本)を取り外してください。
- 配線カバーを一旦外して、配線を挿入してください。
- 配線を端子台に確実に接続してください。
- 配線後は、元通りに配線カバーを取り付けてください。
- 配線は、配線カバーの上より取り出し、クランプで結束してください。
- 電装箱の蓋を元通りねじ2本で取り付けてください。

【注意】配線カバーを取り付けしないと、コントロールボックス内に結露する恐れがあります。



⑧ パネルの取付

- パネルは、電気配線工事完了後に、ユニット本体に取付けてください。
- パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

⑨ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

| チェック項目 | 不良だと... | チェック欄 |
|--------------------------------|----------|-------|
| 室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。 | 落下、振動、騒音 | |
| ガス漏れ検査は行いましたか。 | 冷えない | |
| 断熱は完全に行いましたか。 | 水漏れ | |
| ドレンはスムーズに流れていますか。 | 水漏れ | |
| 電源電圧は本体の銘板と同じですか。 | 運転不能・焼損 | |
| 誤配線・誤配管はありませんか。 | 運転不能・焼損 | |
| アース工事はされていますか。 | 漏電時危険 | |
| 電線の太さは仕様どおりですか。 | 運転不能・焼損 | |
| 室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。 | 冷えない | |